

科目名	助産学実習 Practice of Midwifery		担当教員 (研究室番号)	永見 桂子 (102) 他		教員への連絡方法 (メールアドレス)	永見:keiko.nagami@mcn.ac.jp					
履修年次	4年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学		選択区分	自由	単位数(時間)	10(300)	授業形態	実習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	質の高い助産ケアを提供するため、周産期にある母子とその家族への助産実践をととして、助産師に求められる診断技術、基本的援助技術、分娩助産技術を修得する。また、助産管理の実際を学び、周産期医療の場に応じた助産師の役割について考察を深める。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
	関連するDP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。(技能・表現) G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦、産婦、褥婦、胎児・新生児に必要な健康診査、保健指導を実践することができる。 2. 妊婦、産婦、褥婦、胎児・新生児およびその家族の助産診断を行い、立案した助産計画をもとに、実践、評価することができる。 3. 分娩期の母児の状態を総合的に判断し、分娩経過を予測することができ、助産実践に必要な基本的な分娩助産技術を修得することができる。 4. 周産期における異常の予測および判断ができ、適切に対応することができる。 5. 助産師の業務を遂行するために必要な法律・制度を理解し、助産管理の実際を学ぶとともに、助産師の責務・役割について考えることができる。 6. 地域周産期医療の現状を理解し、地域ケア活動における助産師の役割について考えることができる。 											
成績評価方法(基準)	実習目的・目標の達成度、カンファレンスへの参加・実習態度、出席状況・記録物の提出状況について点数化し、評価する。											
再試験の有無と基準等	「実習の出欠及び追実習に関する取扱要領」第4条に規定される理由により当該実習期間の1/4を超える日数を欠席した場合に追実習を認めることがある。											
教科書	助産論Ⅰ・Ⅱで指定した教科書											
参考書等	必要時、紹介します。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	助産論Ⅰ・Ⅱだけでなく、母性看護学概論、母性看護方法Ⅰ・Ⅱ、臨床病態学Ⅳ(産婦人科学)・Ⅴ(小児科学)の理解が確実になされていることも必要です。受持事例の分娩経過に合わせた時間的にも精神的にも厳しい実習です。助産師を目指す意志が明確な学生でなければ負担も大きいでしょう。卒業研究、保健師・助産師・看護師国家試験に向けた学習も課題となります。											
備考	助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることが履修の前提となります。また、3年次の終了時までには修得すべき授業科目の単位を全て修得していないと助産学実習の履修はできません。											
学 習 内 容												
<p>〔実習内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師として必要な診断技術、基本的援助技術の修得 10例程度の母児の受け持ちをととして、実際に妊産褥婦および胎児・新生児とその家族に対する援助を行い、妊産褥婦および胎児・新生児に必要な健康診査、保健指導を実践できる能力を養う。 2. 分娩助産技術の修得 10例程度の母児を受け持ち、助産過程の展開および分娩助産をととして、分娩期の母児の状態を総合的に判断し、助産実践に必要な基本的な分娩助産技術を修得する。また、異常の予測および判断ができ、適切な対応ができる能力を養う。 3. 助産管理における実際 医療施設における助産管理の実際を学び、助産師として必要な責務を自律して遂行する態度を養う。また、助産師の業務を遂行するために必要な法律・制度を理解する。 4. 助産師による地域ケア活動における実際 分娩期から継続的に対象をとらえ、ケアを実施し、評価することをととして、地域ケア活動における助産師の役割について考える。助産所における助産師の活動の実際を見学し、その役割について理解する。 5. NICUにおける看護の実際 NICUの施設見学やハイリスクベビーへの看護の実際を見学することによって、NICUの役割・機能を理解し、ハイリスクベビーおよび母親・家族に対する看護者の役割について考える。それらをととして、妊娠・分娩期に必要な診断技術、基本的援助技術のあり方について考える。 <p>〔実習場所〕 三重県内の病院、診療所、助産所</p> <p>* 詳細は、「実習要項」を参照する。</p>												
学 習 課 題												
* 詳細は、「実習要項」を参照する。												
実務経験を活かした教育の取組												
・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実際及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の教育を行う。また、実習施設では医療職(医師・助産師等)として実務に携わっている指導者から指導を受ける。												